

特別支援教育ガイド1

新しい学びの創造

～ 幼児編 ～



平成18年3月
奈良県立教育研究所

はじめに

私たちは、親や教員から、障害があるかもしれない、気になる行動がみられる、困っているなど、相談されたときからずっと、親も子も教員も安全で安心な生活を続けられるように、支援させていただいています。

ただ、私たちが相談に応じて悩みをきいたり、具体的な支援の方法を伝えたりすることだけでは、子どもの成長過程において、特別な支援を必要とするときに必要な支援を受けられるような環境を整える、すなわち特別支援教育を推進することには限界があります。子どもを取り巻く人々が理解をし、周りにその理解の輪を広げることによって、子どもは「いつでも、どこでも、だれでも」安心して、安全な暮らしができるようになると考えます。

これまで、県立教育研究所において、自閉症の子どもの幼児教育を通して、この課題解決の研究に取り組んできました。本書は、その取組の一端を幼稚園、保育所等保育に携わる方々だけでなく、保護者や地域の人々にも読んでいただき、理解の輪を広げていけたらと願って、まとめたものです。

本冊子作成にあたって、広陵町立真美ヶ丘第二小学校附属幼稚園、香芝市立下田幼稚園、田原本町立田原本幼稚園の園長先生はじめ保育者の方々には保育の実践と資料を惜しみなく提供していただき、園児とその保護者の方々にもご協力をいただきました。また、兵庫教育大学の井上雅彦助教授には、自閉症の理解と支援の実際について示唆に富んだ助言をいただき、奈良女子大学の浜田寿美男教授には、「ありのままに生きる」ことの意味を学ばせていただきました。ここに改めてお礼を申し上げます。

いつの日か奈良県では、子どもは子ども自身のペースでゆっくりと学び、親は心の余裕をもってありのままを生きる子どもを認め、地域は、「ともに生きる」仲間としてあたたかく見守る、そんな街になることを祈ってやみません。

平成18年3月

奈良県立教育研究所
所長 井上 喜一

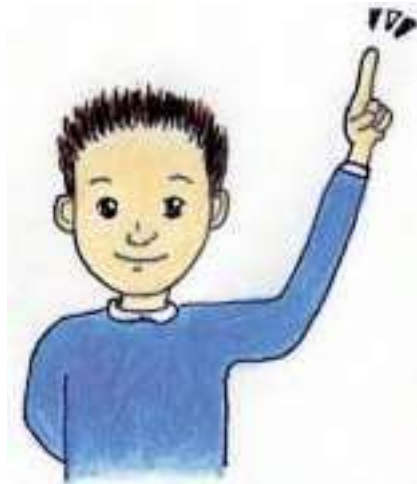
も く じ



はじめに

★子どものすがたから学ぼう 自閉症の理解（井上雅彦）	2
★子ども一人一人の育ちを大切にしよう	
1 くつ箱はどこ？	14
2 くつをはきましょう	15
3 おはよう表	16
4 朝の用意ができたよ	17
5 今日は何をやるのかな	18
6 みんなで遊べるスペースと一人のスペース	20
7 みんなでペープサート	22
8 みんなで遊んだよね	24
9 負けるのいやだ	26
10 予定が変わったよ	28
11 手洗い1・2・3	30
12 手洗いワンプッシュ	32
13 ごちそうさまの時間は？	34
14 ひも結びにチャレンジ	36
15 がんばり表	37
16 じょうずに座れたよ	38
★サポートシステムを整えよう	
1 先生へのお願い（井上雅彦）	41
2 システムづくりの第一歩	46
★「ありのままを生きる」（浜田寿美男）	52

おわりに



自閉症の理解

自閉症の理解

診断名を手がかりに

自閉症と広汎性発達障害はほとんどイコールで使われることが多くなっていますが、広汎性発達障害というのは自閉症の上位の概念で、アスペルガー症候群や特定不能の広汎性発達障害も、その下位に入っています。

教育分野の我々は診断名を付けるという立場にありませんから、診断が付いてくる場合には、それを手がかりにしてどんな子どもなのかを知ることになります。

例えば診断名のところに、高機能自閉症、高機能広汎性発達障害、高機能自閉症スペクトラム障害、自閉症、自閉的傾向、PDDや、特定不能の広汎性発達障害（PDDNOS；自閉症の特徴をすべて併せ持っていないけれど、自閉症のいくつかの特徴をもつ非定型自閉症ともいう）といった診断名があります。

ASはアスペルガー症候群の略称です。

高機能とは、知的障害がないということを表しています。

これらの診断名が付けば自閉症の典型的な特徴をもっているか、自閉症の特徴のいくつかをもっている、自閉圏にある子どもだと理解します。

これらの診断名は医学領域においても、統一されずに使われているのが現状です。

自閉症の症状

自閉症の3症状というのは、「対人関係や社会性の問題」、「コミュニケーションの質的な障害」、「こだわり（イマジネーションの障害）」、これらの3つの症状が全部診断基準を満たした場合自閉症と診断されます。

自閉症かどうかの診断基準として、日本でよく使われるのは、アメリカ精神医学会の診断基準とWHO（世界保健機構）の診断基準です。

医師（児童精神科医や小児精神科医）はそれに該当するかどうかを保護者からの聞き取りなどによって判断します。従って脳波をとったとか、CTスキャンとかMRIをとったから自閉症が分かるわけではありません。

逆に難しいのは、ある病院にいて、CTスキャンやMRI、脳波をとりました、その結果、「異常なし」というふうにお医者さんから聞いて、うちの子は障害ではないと思っておられる保護者も多いことなんです。

仮に脳波やMRI、CTスキャンの所見に異常がなくても保護者からの聞き取りと現在の子どもさんの症状によって自閉症は診断されます。

自閉症の原因

自閉症の原因は、脳の中樞神経の機能障害で、保護者の育て方の問題ではないのです。

まだすべての自閉症に共通な疾患部位というのは医学的にも分かっていません。脳の中にある海馬であるとか前頭葉連合野であるとか扁桃体であるなどいろいろといわれています。

しかし、現在この部位の未発達の原因でこういう症状が起こるといった決定的な要因がつかめていないというのが現状です。

有病率は、医学的な所見では、0.6%以上ともいわれています。最近では70%以上が知的障害を有しない自閉症であるともいわれていて、1対4で男子が多いようです。

応用行動分析（ABA）に基づくアプローチやTEACCHなど自閉症に有効なアプローチにはいろいろなものがあります。

一人一人にあった適切な教育が大切です

発達障害のある子どもにとって教育が一番大切です。早期からその子にあった支援や療育を継続し、コミュニケーションや社会的ルールを学んでいくことで、こだわりや多動や注意集中のしにくさ、対人関係など、かなりの部分が改善されていきます。

このことは、世界的に多くの研究からも明らかになっていて、環境調整や教育によって障害を軽減したり適応状態をよくしたりすることができるのです。

年齢相応の友達関係を築きにくい

みんなで
遊べる
スペース P 2 0

孤立していて集団に入れない場合



- ・まずは大人が媒介となり遊びを展開し、そこへ仲間を呼び込む
- ・かかわりやすい友人関係からはじめる
下学年の子の世話などは得意な場合がある
大人とはかかわれる場合、それでもOK！
おとなしいタイプの子や興味を共有できる子、批判的でない子、興味を共有できるグループから
- ・発達、成長するとかかわり方も変化し、積極性が新たなトラブルになる場合もあるので友人関係のルールを教える

周囲に配慮せず自分中心の行動をしてしまう

指示が理解できていない場合



- ・「個別に」「注意を引いて」「具体的に」伝えること
- ・一度にたくさんの指示が入らないこともある
- ・要求水準を下げてみる
- ・絵や文字にして視覚的に伝える

好きなことをやめるのが苦手な場合



- ・事前の約束(タイマーなど)を使う
- ・守れたらほめる

ごちそう
さまの
時間は



P 3 4

言われたことを場面に応じて理解するのが難しい



- ・社会的な文脈の(場面に応じた)理解を支援する
コミック会話などで文脈を具体的に文章や絵にして伝える
- ・社会的なふるまい方をルールとして学習する
ソーシャル・スキル・トレーニング(SST)
- ・分かりやすく具体的に個別指示する

要求があるときだけ自分から人にかかわる



- ・「〇くんに～と言ってきて」など、
間接的にかかわりを促す、役割交代、
順番待ちなどの社会的スキルを学ぶ

自閉症のコミュニケーションの発達は、要求
→叙述の順をとることが多いのです



難しい言葉を使うが、その意味をよく分かっていない



- ・ その子の言葉の理解度について家族や教師が共通理解をする
- ・ 適切な言い方をルールとして教える

大勢の中での会話では、誰が誰に話しているのかが分からない



- ・ 誰に話しているのか明確にする
「みんなで～します」
「〇くんは～します」
- ・ 個別指示を取り入れる

自分ではないのに
自分が怒られている
と思ってしまうこと
もあるようです。



どのように、なぜ、といった説明ができない



- ・ 順序立てて聞く
- ・ 絵にしたり、紙に書きながら聞く

みんなで
遊んだよね



P 2 4

冗談や皮肉が分からず、文字通り受け取る



- ・ あいまいな表現や比喻を避ける
- ・ しかるときにも表情に気を付ける

「そんなことをする子は、もうこなくていい」と言われると、本当にこなくていいと思ってしまうことがあります

相手が嫌がることをわざと執拗に繰り返す



- ・ 不適切な行動は無視し、代替りの行動を提示する
- ・ 適切なかかわり方や話題のふり方を教える

先生や友達とかかわりたいけれど、話題がみつからなかったり、かかわり方が分からないようです



普段通りの状況や手順が急に変わると、混乱する



- ・ 予定を視覚的に示す
- ・ 変更も視覚的に示す
- ・ 約束をやたらと変更しない

今日は何をするのかな



P 18

特定のテーマに関する知識獲得に没頭する

みんなで
ペーパーサート

P 2 2



- ・ その遊びよりも楽しい遊びを提示する
- ・ 好きなことを学習にうまく取り入れる

字を書くのは嫌いで、電車や車の名前すら覚えてくることがあります

ビデオの特定場面を繰り返し見て次の場面に移動できない



- ・ 適切な活動に置き換える
- ・ 興味のある遊びを増やす
- ・ 活動を始める前に、タイマー等で、どれくらいしたら、次に何をするか伝えておく

ビデオから絵本のよなものをつくり、それを持たせることで移動できるようになることがあります



全身や身体の一部を、同じパターンで動かし続けることがある



- ・ 本人にとっての暇つぶしや不安定さの解消の場合もある
- ・ ほかの遊びを教える
- ・ 今、何をすべきかを伝える

何かにつけ自分が一番でないと気がすまない



- ・ 代わりとなる行動を見つける
- ・ その子にあった、適切な気持ちの
落ち着け方を見つけ、ロールプレ
イなどで練習する

負けるの
いやだ

P 2 6

過去の嫌なことを思い出して、不安になる



- ・ 安心な環境で成功体験を積み重ねる

がんばり表

P 3 7



「大丈夫」という言
葉だけでなく、実際
に少しずつ苦手な環
境で、楽しい体験を
することで、がんば
ることができます

身体に触れられることを嫌がる



- ・ 刺激に対して過敏性がある場合は、急に接近したり触
ったりしない
- ・ ハイタッチや握手、平均台やバランスボードで手を握
るなど無理なく遊びの中で対人的接触を楽しめるよう
にして、少しずつ慣らす

偏食が激しく、食べ物のレパートリーが極端に狭い



- ・調理方法を工夫し、少しずつ挑戦させて、食べることができたらほめる
- ・場所や環境によって食べられることもあるので、食べる位置などを考えてみる

無理矢理食べさせると拒否がひどくなる場合もあります



特定の音を嫌がる



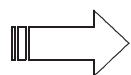
- ・嫌いな楽器の音、動物の鳴き声、運動会のピストルの音など環境調整によって工夫する
- ・好きな活動を入れることで、感じ方がおだやかになる場合もある

楽器を変えたり、運動会のピストルを旗に変えたりしてみます



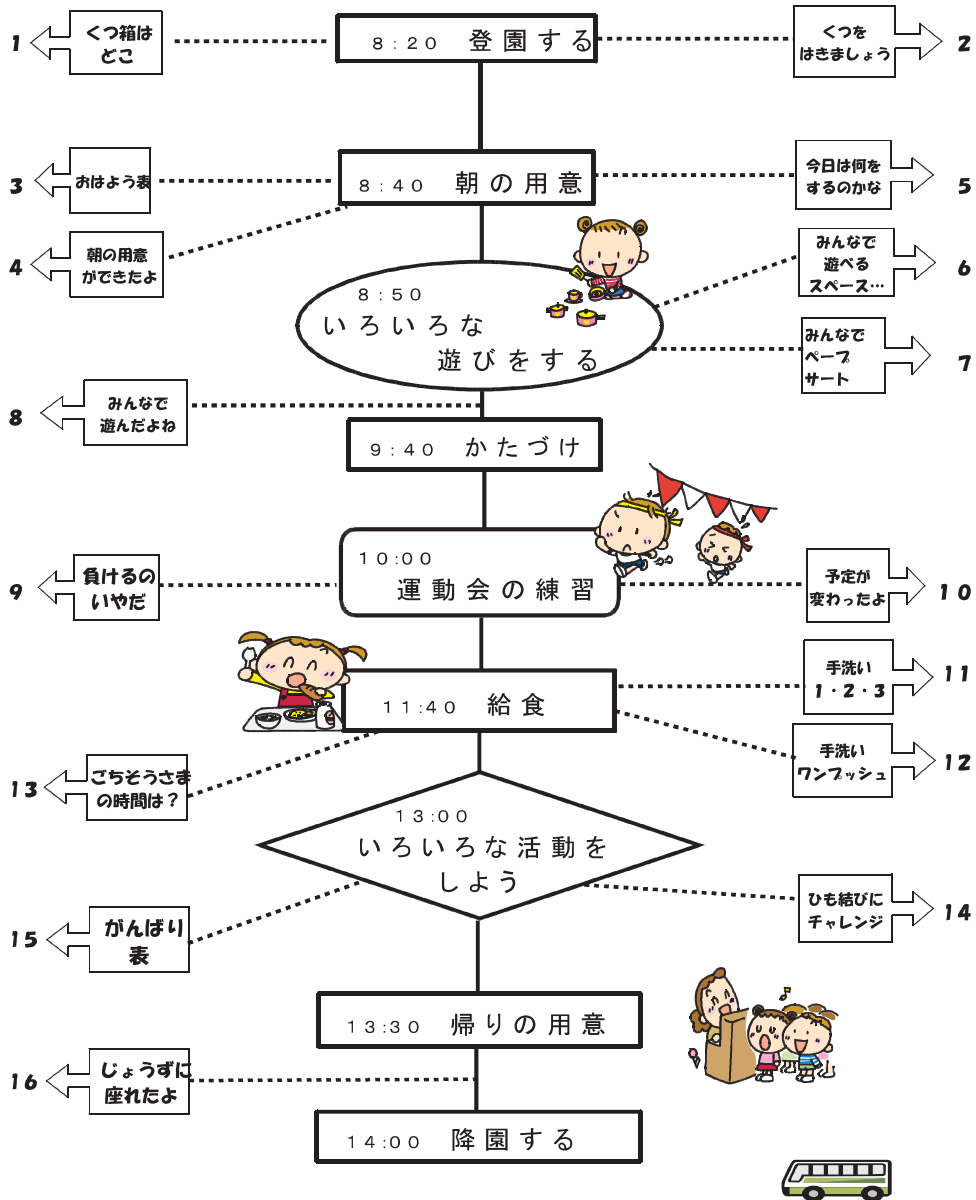


- 1 実践と担任のコメント
- 2 解説集



特性の理解と対応の解説をしています

【園での生活】



1 くつ箱はどこ？

- くつ箱にはうわぐつと同じマークを付けたり、色で示すようにし、探しやすいように工夫しましょう。



【マークと名前が貼ってあるくつ箱】



担任のコメント

初めは、自分のくつ箱がどこなのか、うまく探せなかった子どもも、マークや色を付けるとすぐに分かるようになりました。



2 くつをはきましよう

- うわぐつには、子どもの好きなマークを付けましよう。
- 左右そろえたときに合うようなマークで練習ましよう。



【左右の模様の付いたうわぐつ】



担任のコメント

好きな模様を付けると自分のうわぐつが分かりやすくなりました。

マークを付けて左右の練習をすることによって、間違いが少なくなりました。



3 おはよう表

- カードを裏返すことにより、あいさつのきっかけになったり、友達のだれが来ているのかが分かったりします。
- カードには友だちの写真が貼ってあります。



【おはよう表】



担任のコメント

友達のだれが来ているのかが分かりやすくなり、話をしながら、楽しそうに裏返していました。

お帰りのときにも、まだ返していない友達を呼んで、かかわることが多くなりました。



4 朝の用意ができたよ

ー見通しがもちにくいときー

- 「コップ・タオルかけ」「着替え」「カバンを片づける」ができたら、朝の用意のボードにそのカードを入れる。



【朝の用意のボード】



担任のコメント

朝登園したら、着替えをする、コップやタオルをかける、カバンをなおすなどいろいろな用意をします。

朝の用意が一つずつ終わったら、カードを入れるということを終了の合図にしました。

カードを入れることが楽しみになり、用意もできるようになりました。



5 今日は何をするのかな

—視覚支援で理解する—

○今日の保育の予定を写真カードや絵カードで示すと…

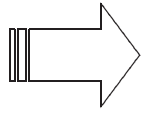


【スケジュール表】

担任のコメント

今日の保育の予定を伝えるとき、言葉と一緒に、写真カードや絵カードを添えて、順番を提示すると、クラスのみんなが、今日の予定を理解しやすくなりました。





視覚支援を上手に使おう！

- ◇ 絵や写真を使って、カードを作ってみたのですが、うまくいかないということをよく聞きます。

次のようなことが起きていないか確認しましょう。

- ①言葉とカードが合っていますか。
- ②みんな同じようなタイミングで提示していますか。
- ③保護者との連携はできていますか。

- ◇ カードはものを表現しているだけではなく、実は言葉を省略しているところがあります。

例えば、はさみのカードを見せて、「これ（はさみ）取ってきて」と伝えても、はさみのカードを指さしてしまう。

- ・「これ」の意味が分からない。
- ・「取ってきて」が理解できていない。

絵でも写真でもカードでも言葉でも、その意味や使い方を子どもと共有することが大切です。

6 みんなで遊べるスペース と一人のスペース

- 子ども同士自然に仲良くなれるスペースをつくる。
- 一人になりたいときのスペースをつくる。



【保育室内に設けたリラックススペース】

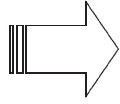


担任のコメント

保育室にリラックススペースを設けたことで、子ども同士が互いに話しかけたり、ふれあいを求めたりするきっかけが多くなりました。

また一人になりたいときは、カーテンを閉めてすごし、友達が気になると、そっとカーテンを開けて様子をうかがったりしていました。





社会参加のしかたのタイプはいろいろ

- ◇ 集団から離れて、一人で行動することが落ち着くタイプ
あまり集団の輪に入れることを強要せずに、気の合う友達を一人つくるように支援しましょう。

- ◇ 指示がないと不安になるタイプ
「大丈夫よ」というあいまいな言葉かけより、スケジュール表や作業の手順表などで、見通しがもてるようにしましょう。

- ◇ お話大好き、でも自分の思いを一方向的に話すタイプ
劇あそびやペープサートで会話の技術を練習しましょう。

- ◇ 几帳面で堅苦しい言い方が好きなタイプ
得意なことや興味のあることをみんなに発表させるなど、長所としてのばしましょう。



7 みんなでペープサート

○いつでも、だれでも使えるペープサート台をつくりました。



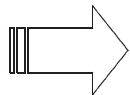
【ペープサート台】



担任のコメント

ひとり遊びが好きで、ひとりでお家のコーナーに入っていましたが、この台をつくってからは、遊びの場面で作ったペープサートなどを使いながら友達とかわりがもてるようになりました。





ソーシャルスキルを高める

- ◇ 場面に応じた話をするのが難しい子どもがいます。

場面に応じて融通を利かせることが苦手、冗談が通じない、敬語の使い分けができないときがあります。

そんなとき

- ①一つ一つ場面に応じて、言い方や態度を教えましょう。
- ②はじめて会う人への話し方と友達への話し方は違うことなど、ていねいに教えてあげてください。

- ◇ 独り言をぶつぶつ言う、少し変わった話し方をする子どもがいます。

そんなとき

- ①やめることはできないので、理解して大目に見てあげることも大切です。
- ②子ども同士の話に大人が入って、コーディネーター役をすることで、うまくいく場合があります。

いろいろな子どもがいてこそ毎日が楽しいのです。

8 みんなで遊んだよね

○自由あそびの後に、みんなで話合いをするとき、子ども一人一人の言ったことを簡単に描いてみましょう。



【遊びの絵】

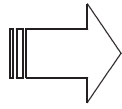


担任のコメント

朝の自由遊びで発見したことや楽しかったことをクラス全体で話し合うときに、その様子を即興で描いた絵です。

絵にすることでイメージしやすくなり、発表したり、友達の遊びにも目を向けられるようになり、次の日の遊びにつなげていくことができました。





保育中の先生の話を見視覚化する

【兵庫教育大学 井上雅彦先生の2005.09.01のブログより】

奈良県立教育研究所の事例発表での幼稚園の先生の実践です

◇ 「今日はどんなことをしたのかな？」と問いかける話し合い場面。

話し合い場面での理解が難しい子どもたちは、とたんにざわざわしはじめる。

こんなときの一つのアイデアがこれ。(となりのページの絵)

子どもたちから出された意見を先生が模造紙に描きながら話を進めていくという視覚支援。

以前、全校朝礼などの話のときにパワーポイントで関連する絵や画像を同時に提示するというアイデアは聞いたことがあるけれど、これは瞬時に手描きするものだ。

それなりのお絵かきテクが必要だが、個人的にはこんなローテクが好き。分かりにくい絵に子どもたちがつっこみを入れてくれるのも楽しそうだ。

保育を受けている全員が楽しくなる

特別支援教育ってすばらしい！

9 負けるのいやだ

○勝ちたい気持ちが強く、リレーや競争に参加しにくい子どもがいます。



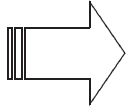
【運動会のリレーで抜かれてしまったときの様子を描いた絵】



担任のコメント

抜かれたときにどんな気持ちになるのか、どうすればよいのかということを見ながら一緒に考えました。少し見通しがもてたのか、リレーにスムーズに参加することができました。





勝ち負けにこだわる

◇ ゲームで勝ち負けにこだわり、みんなで活動することが難しくなることがあります。

①「勝つこともあれば負けることもある」ということを紙芝居のようなもので教えましょう。

②負けたとき、嫌な気分になったときに、その気持ちをどうおさめるのかということをゲームの前にこちらが先に提示して本人に選ばせてみましょう。

- ・ 子どもが小さいときには好きな先生にぎゅーっと抱きしめてもらう。
- ・ 「くやしいー」と叫ぶ。
- ・ 運動場を全速力で走る。
- ・ ぬいぐるみを抱きしめる。
- ・ お守りを握りしめる。
- ・ 負けたときのロールプレイングをしておく。
など

わざと勝ちを譲ったり、ゲームに参加させないという罰を与えたりしないで、参加させながら負けたときの態度を知らせましょう。

10 予定が変わったよ

○予定が急に変更になると、とまどってしまう子どもがいます。



【順序の絵表示】

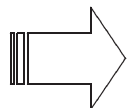


担任のコメント

太鼓をたたくことが大好きな子どもに、合奏の順序の変更を予告なしに伝えると不安な様子でした。

そこで、目の前で合奏の流れを描いて見せたところ、納得して合奏に参加できました。





たとえ急なことであってもいきなり言わない

- ◇ 普段通りの状況や手順が急に変わると混乱してしまう子どもがいます。

特に学校行事や普段の生活パターンにないような検診、避難訓練があると、混乱してしまったり、次の日から園や学校を休んでしまったりする場合があります。

こんなとき

- ・ 予定が変更になったときにはあらかじめ伝える、予告をする、また予定が変わることもあるということも伝えます。
- ・ スケジュールを視覚的に絵カードなどで示して、それを入れ替えるという対応にすると受け入れやすい場合もあります。



11 手洗い1・2・3

○手洗いの順序を絵で示しましょう。



【手の洗い方の順序を示す図（よこ・たて）】

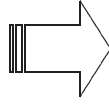


担任のコメント

何番までできたかに気付かせると、見通しをもち、手を洗うことができるようになりました。

洗い方の流れが分かりやすいよう表示を上から下に変えました。



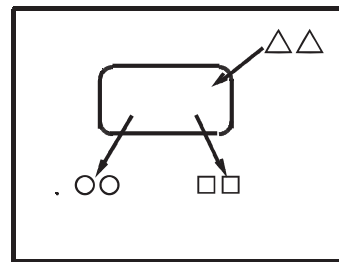


順番の示し方

◇ 活動の順番を視覚支援すると子どもは理解しやすいのですが、順番の示し方が大切です。

- ① 活動の名前を付ける。
- ② 活動の一つ一つに番号を付ける。
- ③ 矢印などで次の活動はどれか示す。
- ④ 文字と一緒に写真や絵などで具体的に示す

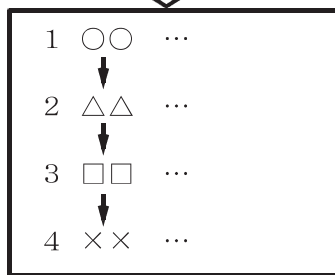
全体を見渡すような表示は理解しにくいので、順番がよく分かるようにする配慮が必要です。



始点
どこから見るのか

終点
どこで終わるのか

を分かりやすく！



12 手洗いワンプッシュ

○ハンドソープのポンプを何回も押してしまう子どもがいます。



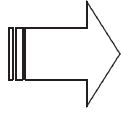
【シールを貼ったハンドソープ】



担任のコメント

ポンプの数字を見てたくさん押してしまうことがなくなりました。





具体的な表現にする

- ◇ ハンドソープを何回押すかは、その人がそれぞれ自由に決めてよいのですが、迷ってしまったり、適切な回数を押せない子どももいます。
 - ・ あいまいな表現では理解できなくても、具体的に回数やルールを示してあげると行動しやすくなります。
 - ・ 子どもは、ポンプをいたずらに押したくなるときもありますが、回数が表示してあると、いたずらも少なくなるのが期待できます。
 - ・ 容器に1回分程度を入れておくという方法が分かりやすい場合もあります。



13 ごちそうさまの時間は？

○昼食を食べ終わる時間を絵とテープで表示をしました。

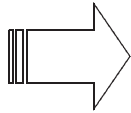


【終わりの時間を示した掛け時計】



担任のコメント

昼食をはやく食べることがよいと思い、急いで食べるので、この時間までに食べ終わればいいことを絵で示し、ゆっくり食べることを意識づけました。



時間の管理

- ◇ 「他の子どもに合わせる」とか、「あせる」ことがないので、極端にはやくしてしまったり、ていねいにしてしまったりするため、時間がかかりすぎる場合があります。
- ・ 場面の切り替えや気持ちの切り替えが難しいので、時間がかかる場合も多いのです。
- ・ 時間の管理をさせる、スピードアップさせる工夫（タイマーの使用に慣れる、スケジュール表を利用させる、いつも時計が見える場所に座るなど。）が必要です。
- ・ ゆっくりする、または急がなければいけない理由も学習させてから、子どもと一緒に取り組みましょう。



【タイムタイマー】 Time Timer LLC

14 ひも結びにチャレンジ

お弁当のナプキン、エプロンのひも、帽子のひも

- 完成したものや、作業の手順や様子が分かるビデオなどを見せて、見通しを立てられるようにしましょう。
- となりで一緒にしながら、細かく具体的に説明しましょう。



【ひも結び練習用具】



担任のコメント

子どもの好きな色のひもを使い、練習用具を作りました。

となりで一緒にしたり、おうちでも同じ物を使って練習しました。

ひも結びができるようになり、いろいろな物を結ぶ楽しさが出てきたようです。



15 がんばり表

- 得意な活動から始め、次に苦手なものに移っていくようにしてみました。
- がんばり表など、活動に取り組む励みとなるようなものを工夫しました。取り組めたときにはシールを貼り、励ますようにしました。



【がんばり表】



担任のコメント

苦手な活動に取り組むために、1日1回取り組むことができたときにはシールを貼るようにしました。シールがいっぱいになっていくカードを見て、少しずつ意欲が出てきました。



16 じょうずに座れたよ

○いすからすぐに立ったり、いすのはしにちょこっとおしりを乗せたりと、上手な座り方を知らない子どもがいます。



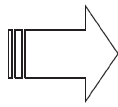
【座り方のよい例とよくない例の絵】



担任のコメント

朝の会や帰りの会で、座り方のよい例・よくない例を絵で示し、意識させることで、姿勢がよくなりました。





モデルを示す

◇ 「ちゃんと~しましょう。」「しっかり~しましょう。」
などという先生の言葉をよく聞きます。

そのときは「ちゃんと」や「しっかり」ってどういう
意味か分からないけれど「はい」と返事をしている子
どもがいます。

だから、動けなかったり、間違ったりするのです。

分かりやすい言葉でその内容をていねいに説明すると
ともにモデルを示すことで、より理解が深まります。





1 先生へのお願い

1 先生へのお願い

まずは支援ありき



- 診断は「育て方」のせいではないこと、支援の継続性が必要であることを示したり、大まかな方向性を決めるためのもの
- 個々の子どもや教師、親の困難さに対して、個別的な配慮や工夫を行うこと
- 診断がないと支援ができないというのはウソ、緻密な行動観察から実態を分析し、支援を行う
- 診断につなげられるような支援や信頼関係を築く

保護者との関係づくり



- 自分の価値観を押しつけない
- 説教しない
- 勝手に診断しない
- 自分の「思い」を言う前に親の「思い」をよく聞く
- 子どもに関する共通理解
- 意見が異なる場合、その背景要因を考える
- 親の意見を取り入れ、ともに考えていく姿勢
- 子どもによりよい教育のために、互いの知恵や考えを出せる関係づくり
- 専門機関へのつなぎを考える

教師間連携



- ・一人で抱え込まない
- ・校(園)内支援チームを立ち上げ、学校(園)全体として取り組む体制をつくる
- ・短くても(5分でも)定期的なミーティングや全体研修会をもつ
- ・守秘義務の遵守に対する徹底を図る
- ・保育園・幼稚園、小中学校間の連携
- ・管理職、教育委員会、専門機関、スクールカウンセラーや巡回相談、校医との連携

学校(園)行事や交流への環境設定



- ・個別の配慮事項について情報収集(親・前担任など)
- ・感覚過敏、こだわり、注意集中困難への配慮
- ・事前に分かりやすく流れを伝える
(視覚化など: ビデオや写真、スケジュール)
- ・徐々に参加時間を増やす
- ・集団の中で少しずつ成功体験を積み上げる
- ・教師間の目標の共有
- ・仲間の理解と応援

しかるだけでは子どもは変わらない



- ・ 欠点を注意すれば、子どもはそれを直してくれるという幻想を捨てること
- ・ 本人だけが普通に努力しても修正されない、対人関係のできにくさ、多動、忘れ物などがあることを認め、個別の工夫や配慮のある教育を
- ・ 連続欠席、いじめの兆候には素早く対応する

つきあい方のコツ



- ・ 子どもの好みを知る
- ・ 子どもの話を聞く
- ・ 子どもの得意なことを一緒にする
- ・ 苦手なことは少しずつ入れる
- ・ ペースにあわせて休憩や別の活動を入れる
- ・ 約束を守る
- ・ 前もって準備をきちんとする
- ・ できたことをうまくほめる
- ・ 教師自らがコミュニケーションを楽しむ

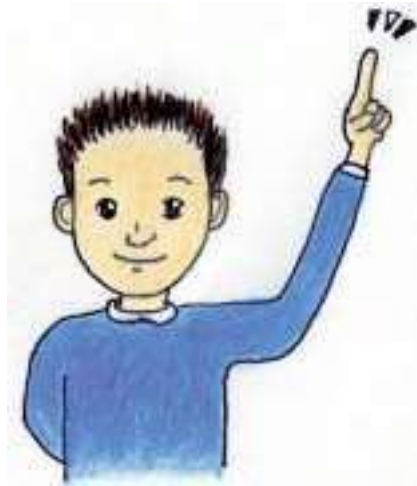
対応のポイント



- 分かりやすい物理的環境条件・人的環境条件を整える
- 視覚的に伝える
- 具体的に伝える
- 変更は前もって伝える
- 問題行動以外をほめる
- 間違いを修正するよりは適切な援助で成功体験をさせる
- スモールステップで導入し、ほめることで自信を付ける
- 乗り越えられない課題で失敗させないように、ハードルを下げクリア
- 社会的スキルやセルフコントロールを教える
- 余暇スキルを教える



まずは大人が理解することからはじまる



2 システムづくりの第一歩

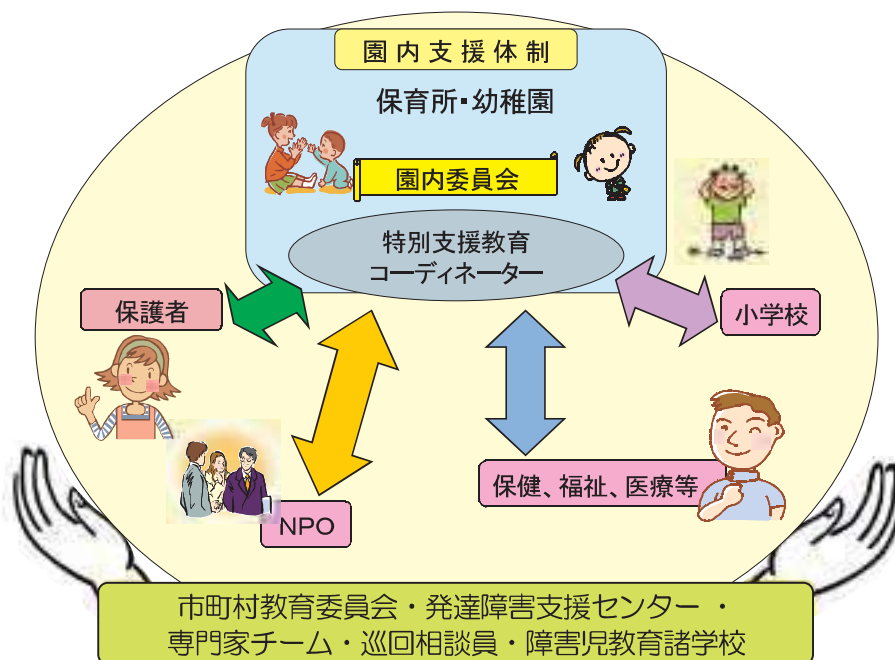
2 システムづくりの第一歩

「園内支援体制」は どうつくればいいのか？

特別支援教育コーディネーターを中心に、園内委員会を開いて支援体制を整えましょう。

特別支援教育コーディネーターの役割

- 園内委員会のための情報収集
- 担任への支援（個別の指導計画作成支援）
- 園内研修の企画、運営
- 保健センターや療育教室など関係諸機関との連携窓口
- 保護者の相談窓口



「個別の指導計画」は どう作成すればいいのですか？

- 特別支援教育コーディネーターを中心として、教育的支援を必要とする幼児について園内委員会を開き、検討する。



実態調べ記入例（表1）

- 特に「個別の指導計画」の作成が必要な幼児について、担任が主に作成する。



個別の指導計画記入例（表2）

- 「個別の指導計画」を園内委員会で検討し、共通理解する。



- 目標を設定し、日々の活動における支援や配慮事項をあげる。



- 日々の記録をつけ、評価をする。
- 保護者とともにより学期ごとの評価をし、「個別の指導計画」を見直す。



幼児の指導と評価の記録例（表3）

- 3学期のまとめをして次年度へ引き継ぐ目標、変更する目標など検討をし、来年度の方針を決める。

平成*年度 個別の指導計画 < 実態調べ > (表1)

クラス ふりがな 幼児名	年保育 組 A	担任
生年月日	平成 年 月 日 (歳)	
入園前の様子	平成 年 月 日 ~ 平成 年 月 日	
障害の状況 既往症等 発達検査の記録	広汎性発達障害 (a 小児科医師 b 先生)	
項目	実 態 (年度当初)	
生活面 ・食事、排泄、着脱 ・安全、清潔 ・物の片付け ・お手伝い等 ・次の活動への見通し	<input type="checkbox"/> 身辺自立はできている。衣服の着脱などもできるが、次にすることが気になり雑になってしまう。 <input type="checkbox"/> 食事面では、牛乳が苦手であるが残さず飲もうとする。給食では三角食べができず、一つのを食べ終えてからでない次のを食べようとしな。握り箸で、小指を使って箸を動かし挟む。食器は器の縁を上から握る。 <input type="checkbox"/> 当番活動は、意欲的に行い、給食当番やマイク当番を楽しみにしている。個人鉢のプチトマトの世話もかかさず行う。 <input type="checkbox"/> 教員の指示を理解し、行動に移すことができる。	
運動・身体面 ・健康状態 ・全身運動、リズム	<input type="checkbox"/> 年長になって喘息がでる。 <input type="checkbox"/> 運動面は活発で、高所に登ったり自転車に乗ったりするなど、様々な遊びを進んで行う。 <input type="checkbox"/> ずっと同じ姿勢でいることは難しく、体のバランスを取りにくい。	
作業面 ・えがく、つくる ・手指や用具等の操作性、器用さ ・持続性	<input type="checkbox"/> 左利きである。手先はやや不器用な点があるが、はさみを使った作業は自分で行うことができる。しかし、早く仕上げたいという気持ちのせいで、雑になることが多い。作品が完成するまで、最後まで取り組むことができる。 <input type="checkbox"/> ひもをくくるなどの細かい作業は、時間がかかるが一人で行うことができる。	
認知・言語面 ・自己決定の力 ・ことば、かず ・物へのかかわり	<input type="checkbox"/> 話を集中して聞くことができない。 <input type="checkbox"/> 思ったことを相手に伝えようとするが自分の思いが強く、相手から聞かれたことに対して適切な返答をすることができない。 <input type="checkbox"/> 興味をもったことに対して、執着心がある。 <input type="checkbox"/> 虫に興味があり、自分で本を見たり観察したりする。	
社会性 コミュニケーション面 ・情緒 ・集団参加 ・興味・関心、遊び ・人へのかかわり	<input type="checkbox"/> 友達に対してのこだわりがあり、「〇くんと一緒にいい。」と思うと、他児が誘いかけても「〇くんと一緒にじゃなきゃいや！」と言ってしまうことがよくある。 <input type="checkbox"/> 自分の思い通りにならないと、人のせいにしてしまうことが多い。遊びの中で物の貸し借りが原因でトラブルになることがある。 <input type="checkbox"/> 話をしたり聞いたりするとき、相手の顔(目)を見ることができない。	
その他 行動の特徴	<input type="checkbox"/> 青色を好み、色を選ぶときはほとんど青色である。	
保護者の願い 家庭の様子	<input type="checkbox"/> 丁寧に衣服の着脱をし、登降園時の準備やロッカーの整理整頓を自分から進んで行えるようになってほしい。 <input type="checkbox"/> 教員の話を聞けるようになってほしい。 <input type="checkbox"/> 教員や友達のアドバイスを受け入れて、友達に譲ったり妥協したりできるようになってほしい。 <input type="checkbox"/> 体を使って戸外遊びをしてほしい。(巧技台、鉄棒、リレー、タイヤ跳びなど) <input type="checkbox"/> 箸、はさみ、鉛筆などの持ち方や使い方を指導してほしい。	

平成*年度 個別の指導計画 <×学期> (表2)

クラス ふりがな 幼児名	年保育 組 A	担任
生年月日	平成 年 月 日 (歳)	

項目	長期目標	短期目標(●重点)	具体的な手だて	学期の様子・評価
生活面	○生活に必要な習慣や態度を身に付け、自分から進んで行く。	●所持品をロッカーの決められた位置に片付ける。 ○タオルをたたみカバンに入れる。 ○箸や食器を正しく持ち使う。	○必要に応じて、その都度、言葉をかける。 ○教員が正しい持ち方を示す。	○一人でできるが、周囲が気になり雑になる。声をかけるが、感情的になり冷静に聞き入れられない。今後も継続して指導する必要がある。 ○たまたまに入れたことを分かっている、注意されると怒りながらやり直しをする。 ○箸や食器の持ち方はまだ直っていない。
運動・身体面	○体を十分に動かし、苦手なことにも挑戦しようとする。	○歌やリズムに合わせて、楽しんで体を動かす。	○教員も一緒に動いて誘い掛けたり、言葉をかけたりする。	○苦手な活動も一度できると、何度も繰り返して続けるようになる。興味のないリズム遊びは、その場で立ったままでしょうとしなかったが、教員が「一緒にしようよ」「楽しいよ」と声をかけて誘うと、元気に体を動かすようになる。
作業面	○いろいろな用具を使い、落着いて製作に取り組む。 ○結んだりほどいたりする。	●はさみで直線をなぞって切る。 ○のりを端まで塗る。 ○鉛筆を正しく持つ。 ○弁当包みを結んだりほどいたりする。	○線を太く書く。 ○塗り残し箇所を知らせる。 ○その都度、声をかける。 ○必ず確認し、できたときはほめる。	○細かい作業になるとあきらめ、「もうできないよう」と怒り出す。早く仕上げたいという気持ちが先走り、線通りに切れなかったり、のりを付けすぎたりする。声をかけると最初は丁寧に取り組むが、次第に雑になっていく。 ○まだ、鉛筆の正しい持ち方が身に付いていない。 ○一人で結べるが、ほどこうとして逆にかけた結びになってしまうことがある。
認知・言語面	○教員や友達の話の落ち着いて最後まで聞く。	●椅子に座り、最後まで話を聞く。 ○友達や教員の話の話を聞く。	○立ち上がろうとしたとき、座るように肩を押さえたり、声をかけたりする。 ○相手の話を聞くようになかちとなる。	○教員の話の最後まで聞かないで、立ち上がって自分の思いを聞いてもらおうとする。 ○友達との会話は、相手の意見よりも自分の思いを強く主張するのでトラブルになる。
コミュニケーション面	○生活に必要な言葉を使ったり順番を守ったりする。 ○友達とのかかわりを深め、いろいろな活動を十分に楽しむ。	●物を借りるときは「貸して」と言う。 ○順番に並び、順番がくるまで待つ。	○言わないで借りたときは、「なんて言うの」と問いかける。 ○後から来たときの並び位置を知らせ、待つことができたことをほめる。	○6月頃から友達のかかわりが増え、一つの遊びをじっくりと楽しむようになる。それにもない、友達に声をかけずに物を借りるなどのトラブルがある。言う言葉は分かっているが使うことができない。 ○一番になることを意識しすぎ、横入りをしてしまう。教員に注意されると「先生が悪い」と怒るが、待てるようになってきた。
その他				○青色に対するこだわりはあるが、他の色でも「仕方がない」と言って、我慢できるようになる。

家庭の様子	○近所の友達と遊ぶことが多い。 ○食器の持ち方・弁当の包み方の練習に家庭でも取り組む。
-------	--

幼児の指導と評価の記録（表3）

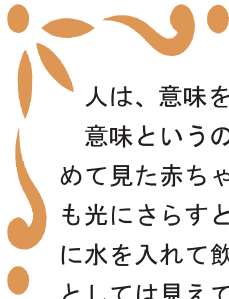
園長印	主任印	幼児名(A)	期 間	評 価
			/ () ~ / ()	/ () ~ / ()
項目	課 題	幼児の姿	評 価	幼児の姿
生活面	<ul style="list-style-type: none"> ○登園時、持ち物をロッカーの決められた位置に片付ける。 ○制服をきれいにたたむ。 ○箸や食器を正しく持ち使う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・決められた位置に片付けができる。雑なときは言葉をかける。 ・はっぴのたたみ方を知らせながら、一人でできるように言葉をかける。 ・意識させるように、その都度声をかける。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ △ × 	<ul style="list-style-type: none"> ・身体測定で、早く測定してもらおうと脱いだ服を雑に椅子の上に置く。教員と一緒にたたみ直す。 ・箸が交差してしまうので、物をつかめない。その都度、指の使い方を知らせる。
運動・身体面	<ul style="list-style-type: none"> ○バランスを取って片足で立つ。(組立て体操のポーズ) ○リレーでは決められたコースを走る。 ○友達と力を合わせて組立て体操をする。 ○体操の動きを正しく行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・支える足と挙げる足を離して、10秒間立てるようになる。 ・友達と一緒にするポーズでは自分の役割を頑張っていた。一人でするポーズはふざけることがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎ ○ 	<ul style="list-style-type: none"> ・片足で長く立てるようになり、友達や教員に見せる。 ・はとほっほの体操は運動会で何度も練習していたので、動きを止めずに最後までする。
作業面	<ul style="list-style-type: none"> ○はさみで曲線をなぞって切る。 ○のりを伸ばすように塗る。 ○ちよう結びをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・はさみやのりを使う活動がなかった。 ・はっぴを着るときに結ぶ腰ひもをちよう結びにできないので、青と白の2色のひもを通した台紙を使って練習をする。 	<ul style="list-style-type: none"> — × 	<ul style="list-style-type: none"> ・はさみやのりを使う活動がなかった。 ・上手に結べないことにいら立ちがあった。何日か続けることで自ら「ちようちよ結びしよう」と言うようになった。「できない」とつぶやくが教員と一緒に頑張る。
認知・言語面	<ul style="list-style-type: none"> ○椅子に座り、最後まで話を聞く。 ○友達や教員の話聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・椅子に座って話を聞けるようになってきた。しかし、床に体操座りをして話を聞くときは、となりの友達とふざけて聞いていないことがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ △ 	<ul style="list-style-type: none"> ・椅子に座って話を聞くことができる。 ・友達や教員が話している途中で、思ったことを言ってしまう。
社会性・コミュニケーション面	<ul style="list-style-type: none"> ○物を借りるときは「かして」と言う。 ○「ありがとう」「ごめんなさい」をきちんと言う。(10/4~) ○教員や友達顔を見て「おはようございます」の挨拶をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「○くん、次貸してね。」と声をかけるようになってきた。 ・毎日、顔を見て挨拶をする。担任には自分から進んで挨拶ができるが、他クラスの教員から挨拶をされたときは、無視をしたり相手の顔を見ないで挨拶をしたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ △ 	<ul style="list-style-type: none"> ・「ごめんなさい」とは言うが、その場のぎの言葉であったりする。なぜ相手に謝らなければならないのかを本児に分かるように説明し、確認を行うようにする。 ・担任には顔を見て挨拶をするが、他の教員には無視したり顔を合わせなかったりする。
保護者との連絡 家庭での様子				

〈 評価 ×できない △芽生え ○ほぼできる ◎できる 〉

担任印

／ () ~ / ()		／ () ~ / ()		
評価	幼児の姿	評価	幼児の姿	
△ ×	<ul style="list-style-type: none"> 決められた位置に持ち物を片付けることができる。 意識しながら箸や食器を持っているが箸の持ち方は常に言葉かけが必要である。 	◎ △	<ul style="list-style-type: none"> 身支度をしているときに気になることがあり、カバンをロッカーの前においたままだった。本児と登園時にすべきことについて話をすると、翌日から片付けをしてから次の行動に移っていた。 	◎
○ △	<ul style="list-style-type: none"> 運動会后、他のクラスの友達とも色別リレーを楽しむ。早くゴールしたくて、コースの内側を走り友達を抜かしたことを喜ぶ。本児と一緒に走り、声をかけながらコースを知らせたので、コースを外れずに走れるようになる。 	○	<ul style="list-style-type: none"> 決まったコースを走れるようになる。しかし、勝敗が気になり、自分のチームが負けていると、勝っているチームのはちまきと交換して走る。負けていても最後まで自分のチームで頑張り、負けていたら抜かしたらよいことを話し、様子を見る。 	◎
— ×	<ul style="list-style-type: none"> はさみはゆっくりと切るように言葉をかけるときれいに切れるが、一人でさせると急いで切るので、雑になる。 言葉をかけるだけでちょう結びができるようになる。がんばり表にシールを貼りたくて毎日練習をする。 	△ ○	<ul style="list-style-type: none"> のりを隅々まで塗っていないので、塗り残しのないように言葉をかける。 一人でちょう結びができるようになる。 	○ ◎
○ △	<ul style="list-style-type: none"> 椅子に座って話を聞くことができる。 友達や教員が話している途中で、思ったことを言ってしまう。最後まで聞いてから言うように言葉をかける。 	◎ △	<ul style="list-style-type: none"> 椅子に座って話を聞くことができる。 最後まで話を聞いてから言うように言葉をかけたことで、話を聞いた後に自分の意見を言うようになってきた。 	◎ ○
△ △	<ul style="list-style-type: none"> 教員や友達に何かしてもらっても「ありがとう」という言葉が出ない。その都度言うように促しながら、どのようときに使うのかを知らせる。 「○○先生にも挨拶してね。」と言うとそのときは目を見て挨拶をする。廊下等で出会ったときは挨拶をされても、挨拶のみで目を合わせることはできない。 	△ △	<ul style="list-style-type: none"> 注意されることがあると「ごめんなさい」と言う。「ありがとう」は言えるときと言えないときがあるので、その都度言葉をかける。 教員や友達と挨拶や話をするときも視線をそらすことがなくなってきた。かかわりが少ない相手とは難しい場合もあるが、自然と目が合うようになってきた。 	○ ○
		<ul style="list-style-type: none"> がんばり表をつくったことでできないことにも楽しく取り組んでいる様子を伝えると、家庭でも成長が見えて分かるので嬉しい。 		

ありのままを生きる



人は、意味を充満させた世界に生きています。

意味というのは、そのものに対する振る舞い方だと思ってください。鉛筆を初めて見た赤ちゃんにとっては、鉛筆はただの棒です。あるいは、コップについても光にさらすとキラキラするというような物理的な特性は目で見えますが、そこに水を入れて飲むものだという事は分かりません。生理的な感覚を味わうものとしては見えていても、そのものの意味は見えないということからスタートしています。そこから大人のようにすべてのものに意味を張り巡らして生きる。だからこそ安心して生きることができるのです。

人は、このように意味の世界に生きています。では、自閉症の子どもはどんな世界に生きているのでしょうか。

自閉症の子どもがあるものにこだわるというとき、こだわったものには、少なくとも本人なりの意味付けがなされている。「そんなことにこだわっているから世界が広がらないんだ。」という形で周りの大人たちが強引にそこから引き離して、「こちらの方でもっといいことがあるから。」と善意で引き寄せたとして、子どもの側から考えたときにどういうことになるのか。そこでパニックを起こすことはやむを得ない。そのことを理解しないで強引に「こちらの世界が本当の世界だ。そっちはやめて、こっちに来なさい。」とやっているかもしれない。そういう目で見てほしいなあと思います。

こだわっているというのは、少なくともその子どもにとってはそこに本人なりの意味があるからです。つまり、安心してその振る舞い方が分かっているものと考えることができる。逆に言うと、私たちにとっては意味があると思っていることが、子どもにとってはそう見えていないかもしれません。ものの意味が見えないところに生きているというのは実に不気味な怖い世界です。

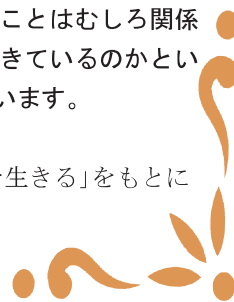
人はみな同じ地球上のこの世界を生きていて、お互いにかかわって生きています。しかし、自閉症の子どもたちも私たちと全く同じ見方をしているかのように思い込んでかかわるということは、実はその子どもたちを理解していないということになってしまう。

自閉症の子どもは相手の視点に立ってみるということが非常に苦手です。逆に

私たちは自閉症の子どもの視点に立って、その子どもたちがどう生きているのかを考えることが少なくともできます。そういった努力をすることでお互いの関係を楽にしてほしい。大切なことは、その子どもたちをこちらの世界に強引に引き寄せようとするのではなくて、お互い歩み寄り、折り合いを付けながら生きることだと思っています。

ありのままを生きるということは、非常に難しいことです。自分たちの世界に引きずり込んだ方が楽そうに見えるんですけども、実はそのことはむしろ関係を悪くすることになる。そのためにも彼らがどういう世界を生きているのかということ、それを彼らの側の視点から見る努力をぜひやってほしいと思います。

2006. 6. 12開放講座浜田寿美男「ありのままを生きる」をもとに



お わ り に

この本を手にしてくださったことに対して、まずお礼を申し上げます。

障害の種別や、障害の有無にかかわらず、ユニバーサル・デザインを基盤にして、幼稚園・保育所等に通うすべての幼児が笑顔で楽しく暮らし、保護者を含む保育者が安心して子育てをし、地域全体が見守り育てられることを目標にして、できる限り「分かりやすさ」にこだわりました。

本書は、保育に携わる先生方だけでなく、保護者や地域の方々、そして保育の先にある学校教育の場面においてもヒントになると思っていますので、ぜひご一読いただき、ご示唆いただければ幸いです。

今後もさらなる研鑽を積み、奈良県における特別支援教育の充実に努めてまいります。

監修

井上 雅彦（兵庫教育大学 発達心理臨床研究センター 助教授）

執筆者一覧（所属・職名は平成18年3月現在）

井上 雅彦

桜井 直子（磯城郡田原本町立田原本幼稚園 教諭）

杉岡 榮子（広陵町立真美ヶ丘第二小学校附属幼稚園 教諭）

後藤 晴子（香芝市立下田幼稚園 教諭）

特別寄稿

浜田寿美男（奈良女子大学 教授）

特別支援教育ガイド1
新しい学びの創造～幼児編～

平成18年3月 印刷・発行

編 集 奈良県立教育研究所

発 行 奈良県立教育研究所
〒636-0343 奈良県磯城郡田原本町秦庄22-1
TEL. 0744-33-8900 FAX. 0744-33-8909
URL <http://www.nara-c.ed.jp/>

